

# マン ウォッチング



私の今の目標は  
後輩に道をつかって  
いくこと  
伊東市  
太田恵子さん

太田恵子さんは、'93年4月、女性乗客掛として伊豆急行株式会社に入社した。その後同年12月には、猛勉強の末みごと動力車操縦者運転免許（甲種電気車免許）を取得。日本でただ一人の女性の電車運転士となった。

伊豆半島の東海岸を走る伊豆急行は、リゾート鉄道である。この路線で、彼女は「リゾート21」や、「スーパービュー踊り子号」の他、団体専用列車を含めて、伊東駅と伊豆急下田駅を結ぶ列車を運転する。乗客にとっては風光明媚な伊豆だが、土地の起伏が激しい路線である。山間地や海岸沿いを縫うように、10両編成の列車を操り、大勢の人の安全を一身に背負って運転するのは、けっこう厳しい。「このカーブでは何キロ、ここでは何キロに落とせ、と走る速度がきちんと決まっているんですよ。その日の天候や乗客の数、それに車両のクセなどによってもブレーキ加減が違います。それをのみこむまで時間がかかりました。」

彼女が運転する車両に乗って実際に伊豆高原駅から伊豆急下田駅まで往復してみた。とてもスムーズな運転だ。運転士としての技量も既に周囲から認められ、須崎御用邸に静養にむかわ

れる秋篠宮ご一家の乗る電車の乗務もしたほどだ。

今までの経過を淡々と語る彼女だが、ここに至るまでには少なからず壁があったようだ。女性運転士の導入は彼女にとっては降って湧いたような話だった。女性乗客掛導入が乗客から好評を博したので、次のイメージアップのためにもぜひ女性運転士を！という会社の方針、言わば経営者が長年抱いてきた夢の実現であった。「通常、男性の場合は入社後駅務掛となり、その後車掌業務を経験して初めて運転士の試験が受けられるんです。それが、私の場合、会社の方針とはいえ、幾つかのステップを飛び越して突然運転士の試験を受けられることになりましたからね。まわりの困惑は当然だったと思います。」

もともと、鉄道は男の職場というような社会通念の中にボンと放り込まれて、受入れ側の男性も戸惑っているのがよくわかった。社内には正直言って女性運転士に不安を示す声もあったと言う。また、仕事の性質上、緊張と孤独感もつきまとう。精神的に袋小路にはまり込んで、一人ふさぎ込む時期もあった。いろいろ悩んで悩み抜いた末、「私は私、男だから女だからということを気にするのはやめよう。とにかく、今自分に与えられた仕事を一生懸命やること、それしかない。それをみて私という人間を判断してもらおうそんな結論にたどりつきました。」こう考えられるようになってから楽になったと言う。

今では先輩の男性たちが仕事上のことをいろいろアドバイスしてくれる。去年、後輩が3名、運転士をめざして入社してきた。彼女の実績が認められてきたからだと思う。「私の今の目標は、次に続く彼女たちが仕事をし易いように道をつくっていくこと」とさわやかに答える。女性の運転士第一号と、いろいろなところで取り上げられる彼女だが、その姿勢には気負ったところが少しも感じられない。これからどういう人生を歩むのか注目したい女性だ。



絵手紙で  
人生の楽しみ  
発見

浜松市  
奥野義広さん

浜松市の東伊場交番。道を尋ねる人々にこやかに応対するのは奥野義広さん。笑顔の似合う現役警察官だ。

「2年前にこの交番に異動して、担当地域を巡回中に、たまたま近藤季美先生のお宅（お寺）を訪ねたんです。お寺の玄関先に飾られた絵の話をきっかけに、先生が絵手紙教室を開いている方だということを知りました。私も日頃、夫婦に絵手紙を書き送ったりしていたものですから、すっかり話が盛り上がって、先生との絵手紙のやりとりが始まったというわけなんですよ。」

奥野さんは絵が好きで、絵の道を志そうと思ったこともあるほどだった。自分なりの絵を描きたいと、好きな作家の絵を見たり、画材を工夫したり、仕事の傍ら絵を書き続けてきた。

奥野さんの絵手紙は竹ペンで大胆に、鮮やかに季節や日常を写しとった個性的な作品。近藤先生の絵手紙教室にそのはがきが飾られるたびに、生徒さん達から感嘆の声が上がった。以来、絵手紙のやりとりの輪があつという間に広がりが、年齢も職業も性別も越えた人とのつながりができていった。そうした交流がもとで、今年の5月と6月には銀行で絵手紙展を開催。遠方からわざわざ見に来てくださる方や、さまざまな反響に本人もびっくり。「不思議なもので、自

## それでも“自分”が できることを探したくて…



たまねぎも、箸で固定しながらみじん切りにします。

’92年7月29日、勝又さんは今でもその日のことを鮮明に思い出す。板金工場に勤めていた彼女は、作業中突然倒れてきた50トンもあるプレス機に右手を奪われた。周りにいた従業員が身震いして身動きがとれないほど、悲惨な現場だったという。その後数度に及ぶ大手術が行われたが、自分一人ではボタンも掛けられない、手紙も書けない、「こんな体じゃ、生きていたってしょうがない」自暴自棄になり、葉や食事を拒否して随分看護婦さんを困らせた。

そんなある日、看護婦さんが一冊の本を持ってきた。不慮の事故で寝たきりの体になっても、わずかに動く口を使って詩や絵を描いている星野富弘さんの画集だった。「みごとに表現された絵と添えられた数々の詩や日記を目の当たりにして、まるで体の中を電気がかけ抜けていくような衝撃が走りました。」それをきっかけに星野さんとの交流も生まれた。今でも星野さんが恩人だと語る。「自分一人が不幸だと思ったら大間違いだと思いました。手が無いくらいでメソメソしていた自分が恥ずかしくなりました。頑張らなきゃと力が湧いてきたんです。」

「家事や身の回りのことができるように頑張るんだ。」と退院後リハビリに通いだした勝又さんに、今度は介護の壁が迫った。義母が痴呆症になったのだ。自分のことだけやっているのでは間に合わなくなった。小さな体で75キロのお義母さんを背負って風呂呂に入れ、食事の世話、下の世話まで何でもやった。夜昼となく徘徊するお義母さんを探し連れ戻す日々が続いた。そ

大仁町  
勝又ふみ子さん

のお義母さんが、おしめの替え方に不平を言った。その時は、「我慢しなさいよ。手一本でやっているんだから。」と我慢させたけれど、あとで心に引掛かりが残った。「介護を勉強できないかしら。片手でもおばあさんが満足できるような介護をめざしたい。」と…。

そんな気持ちから東部就業女性センターの介護ヘルパー技術講習に受講を申し込んだ。救急法や講義は一生懸命やっだけれど、実習で壁に突き当たった。床擦れをカパーするための円座を縫う。左手だけでは思うように糸が通せない。寝たきりの人を入浴させる実習もある。「もし、浴槽に落としたり、支えられなかったら…と思うとね。申し訳ないでしょう。(ヘルパーは)だめかなと思った…。でも、他の受講生の何倍の時間がかかっても、私にも介護を必要としている方に手を差し伸べられるという自信が欲しかった。」そんな勝又さんに、講師がアドバイスした。「人の心の支えになることは出来るんじゃない?福祉の現場を心得たカウンセラーをめざしたら?」

心に光がさした。「また、挑戦してみようと思います。できるかどうかやってみなければわからないもの。時間はかかっても普通の人と同じことができるようになりたい。いろいろ主婦の知恵を工夫しているのよ。」とにこやかに語る。

様々な集まりに勇気を奮って顔を出す。友達もできたが、反面、社会から一人前扱いされていない自分を直視しなければならぬこともある。ある時、みんなと一緒に奉仕作業に加わろうとした彼女を、「あんな体で…」というまわりの言葉が心を凍らせた。「思いやりだったかもしれない。でも、そうとれなかった。」みんなと同じように「と努力してきたから余計悲しかったんでしょね。でも、逆にそれが励みになって、明日はきつと認めてもらえるように頑張ろうって思えるようになりました。」

リハビリと家族の世話を懸命の毎日を送っている勝又さん。タマネギを一生懸命みじん切りにする姿に何だかとても励まされた。

分が描いたものを人が喜んで見てくれる。返事が返ってくるとうれしくなってまた描きたくなる。長い間、自分は受け者だと思って来ましたが、この年になって自分のこと、自分のやりたことがはつきりしてきましたね。」

絵手紙で広がった交流がきっかけになって自分自身が見えてきたという奥野さん。絵手紙を存分に楽しみながら、定年後は、絵を趣味ではなく、人生の柱へと持っていきたいと夢は広が



こんな手紙が届いたら、とても幸せな気分になりそう・・・  
(左)奥野さんの作品の一部、まだまだたくさんあります。





## 座談会

# 自分らしく生きる

●年代も職業も違う4人の方々に、「自分らしく生きる」というテーマで、話し合っていました。

皆さん、それぞれの分野で生き生きと輝いて、自分らしさを発揮されている様子。その秘訣は、どこにあるのでしょうか？

(発言は紙面の都合により一部のみ収録いたしました。)



司会…まずは自己紹介からお願いします。  
田辺…職業は大工です。視野を広げたいと思つて、「あざれあ」の「メンズ・サタデーセミナー」に参加し、その修了者で作った「土曜倶楽部」という会にも入りました。「土曜倶楽部」では、メンバーの専門性を生かして、お互いが講師になり、勉強会を持つたりもしています。僕もこの前、講師として「健康的な住まい」について話しました。

高橋…製紙会社に勤務しています。県主催の「男女共同参画アドバイザー養成講座」を受講したのがきっかけで、今年は「あざれあん・るねっさんず」に参加しています。また、月2回、カウンセラーの勉強会にも参加して、いろいろな世界に首を突っ込んでいます。4月末には、阪神大震災のボランティア活動のため、6日間、神戸に行ってきました。

長谷…私は8歳を筆頭に4人の子を持つ主婦です。実生活の中で見つけた「なぜ、どうして」というひっかかりを大切にして、大人も子ども

も自分を表現していけたら…と考え、自宅をオープン・ハウスとして開放して地域の人たちのコミュニケーションの場を提供しています。ここでは、ワークショップ、勉強会、相互託児をはじめ、環境問題などのさまざまな情報交換もしています。

飯塚…私は小学5年生の時から親元を離れ寮生活をしていました。18歳のとき、企業に就職しましたが、3年後、静岡にもどって夜間の短大に入りました。短大の3年生のとき、「なにか自分を表現できるものはないかな」と考え、ラジオ局のレポーターになりました。その仕事で静岡県内の市町村すべてを回り、「静岡県っていいところだなあ」と感じて。そこで就職先も、地域に関わる仕事ができる会社を選んだのです。その後、もう一度勉強しようとして静大の経済学科に編入し、4年に在学しています。編入を機に、仕事は独立し、今年自分でまちづくりの会社をつくりました。5年前に静岡ヒューマンカレッジという生涯学習講座に参加したことでア



たな べ ふく じ  
田辺 福治さん

由比町在住 自由業  
平成5年度「あざれあ」主催「メンズ・サタデーセミナー」参加者



いい づか まさ よ  
**飯塚正世さん**

静岡市在住 自営業・学生  
今年度「あざれあ」主催「しずおか女性  
カレッジ」参加者



たか はし ひろ ゆき  
**高橋寛之さん**

三島市在住 会社員  
今年度「あざれあ」主催地域研究塾「あ  
ざれあ・るねっさんず」参加者



は せ み ち よ  
**長谷美智代さん**

浜松市在住 主婦  
今年度、浜松市主催「浜松レディズシ  
ティカレッジ」参加者

ンテナが増え、考え方も変わりました。自分のためにいろいろなことをやってみようと今年は「あざれあ」の「女性カレッジ」に参加したり、地域では大道芸ワールドカップの実行委員として企画、運営を担当しています。

**「自分らしさ」って何だろう**

**自分を好きになって**

**一生涯かけて探すもの・・・**

司会…あなたにとって、「自分らしさ」とはなんでしょうか。

飯塚…自分らしさというのは難しいですね。昨年サーカスワークショップに一週間参加し、道化師についてのワークショップを受けました。道化とは、いろいろなものを疑人化、自分化するものなのです。そこでは「あなたはだれ?」「WHO?」ということに徹底的にこだわります。ワークショップのなかで「あなた自身としてここから向こうまで歩いていってみて」と言われたとき、どうしていいのかわかりませんでした。初めて「私とは何か」という疑問にぶつかったんです。私らしさとは一体何なのか、誰かに聞いてみたいくらいです。

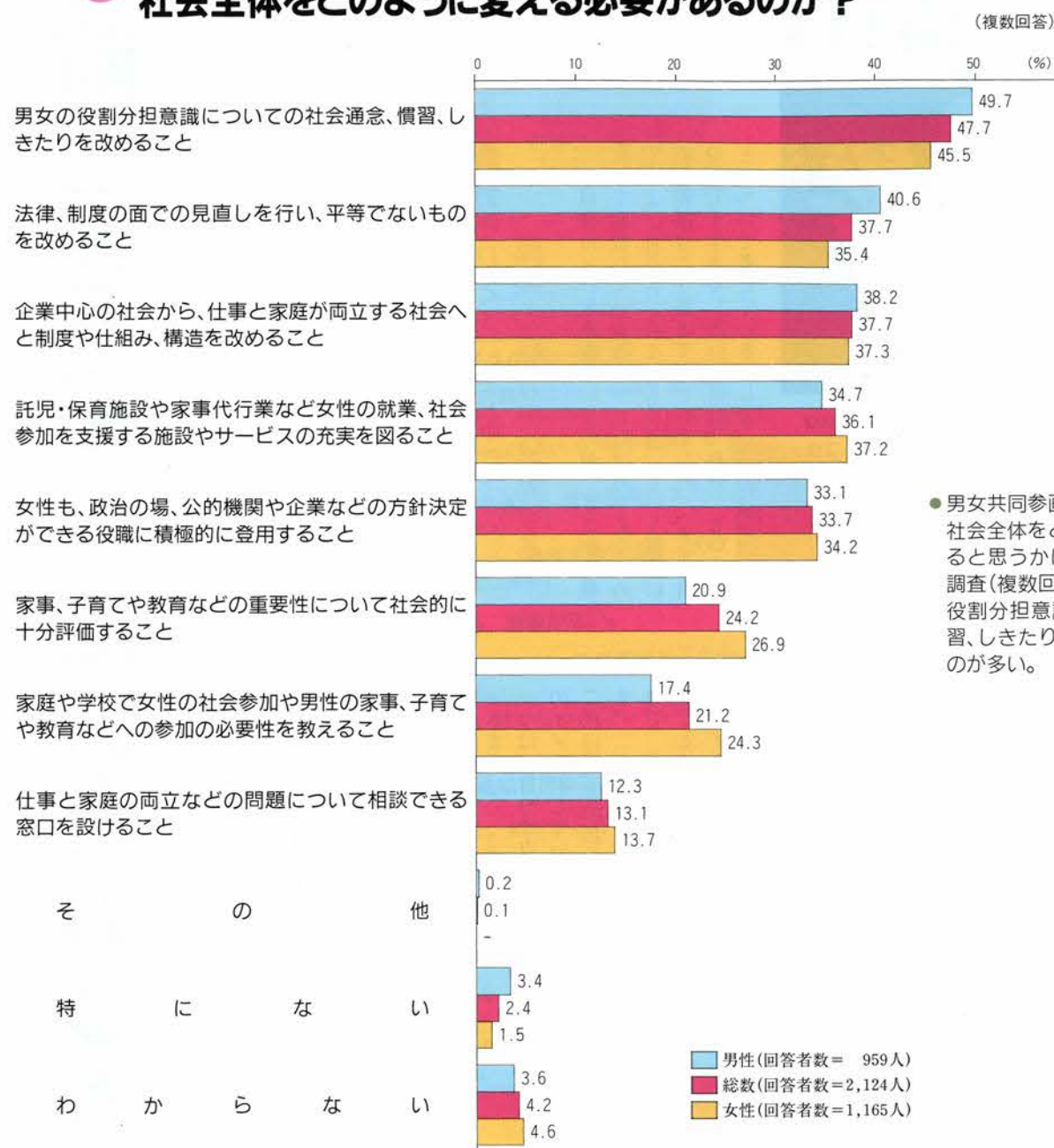
高橋…自分らしくというのは、自分を知ることではないかな。どうすれば知ることができるといふと、自分の好きなことをやってみる、それがとっかかりだと思えます。何にでも顔を出し、新しい発見をし、自分に生かしていく。私は40歳になったころ、仕事だけに満足できなかったことから、自分がしを必死になってやりました。それで「もの書き」をしてみようと思って、いろいろなところに投稿しました。そのうち原稿依頼もくるようになり、軌道にのりかけたのですが、本業の方が忙しくなって、止めざるを得なくなりました。50代になって、博物館学芸員の資格をとろうと思ひ、大学の通信課程で勉強し資格も取得しました。それとカウ

ンセリングの勉強もしています。こちらの方が自分には合っているかな。でも今はまだ、はっきり決めないで、なんでもやってみたいのです。長谷…私は、親の敷いたレールの上を歩いてきて、自分のしたいこととするということはあまりありませんでした。そして結婚して「良い嫁、妻、母」の役割を演じていく中で、自分や家族の中にいろいろと葛藤が生まれました。そんな頃、4人目の子を妊娠し、それが「自分」というものについて考える転機となったのです。助産院で「あなたはどんな出産をしたいの」と問われて、病院まかせだった出産にはじめて疑問を持ち、私にとって「産む」って何だろうとあらためて考えました。出産計画を立て、水中出産コーディネーターを呼んで勉強会を企画したり、夫や子どもと共に出産についてのビデオを観て話し合いました。家族が見守る中でのお自身の中に出産を題材に報告会も開きました。出産を通して多くの人と触れ合うこととなり視野が広がり、精神的なゆとりも生まれました。こんな風に、人生の主体者としての「自分」を見つめ、それを無理なく表現していけたら、それが自分らしさかなと思います。

田辺…2年間鉄道関係の仕事をしていましたが、夜の仕事だったので身体によくないと考え、転職しました。その頃から自分らしさを意識しはじめたのかもしれない。いろいろな人に出会い、自己主張していくうちに自分というものが分かっていくのだと思います。僕の目標は「あるがまま」です。来るものは拒まず受け入れていきたい。自分らしく生きる、という根本は、自分を愛することかな。また仕事の面では、建材の吸湿性やホルマリン加工などの問題、通風など、健康にこだわった住まいづくりをしています。これも自分らしさと言えるかもしれません。

高橋…最初から「自分らしさ」が存在するのではなく、一步一步、歩いて確かめていくもの。自分を好きになり、その中で自分を探し、見出ししていくものではないでしょうか。

# 男女共同参画社会を実現するために 社会全体をどのように変える必要があるのか？



●男女共同参画社会を実現するためには、社会全体をどのように変える必要があると思うかについて、3つまで聞いた調査(複数回答あり)。男女とも「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」を挙げたものが多い。

※10.11ページの2つのグラフは、平成5年総理府「男性のライフスタイルに関する世論調査」を参考にしました

自分らしさとは、自分を好きになり、何事にもチャレンジしていく中で見つけていくものだと、出席者の皆さんも元氣ハツラツでした。これを読んでのあなたはどんな感想、ご意見をお持ちになりましたか。ご家族やおともだちと「自分らしさ」について話すきっかけにしたいだけだと思います。

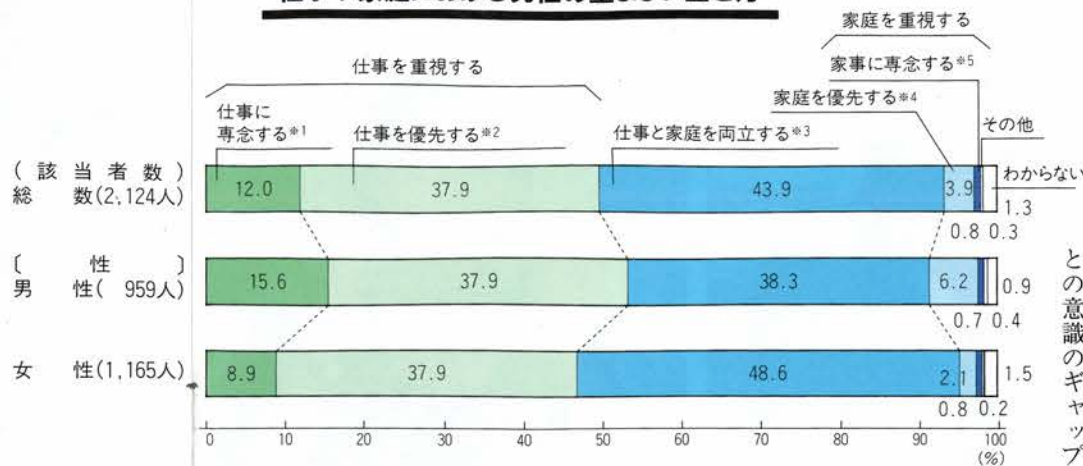


★ ★ ★  
司会「妻子を養わなくては」と、自我を殺して働く夫を下地にした妻の自由や家庭を妻かかせにしようという夫の自由ではなく、男女がともに自分自身の自立を果たしたうえで、おたがいの自分らしい生き方を応援しようということが大切ですね。そうすれば生き方の選択肢はますます広がっていくと実感しました。

長谷「レイズカレッジの卒論のため専業主婦にアンケートをとったら、意外にも社会進出を望む人がほとんどだったのは驚きました。社会のいろいろな障害を解決したら、すぐ女性は社会進出するのかもしれないとそうではなく、その前に自分の中の壁を越える必要があるのだなと思えました。」  
飯塚「女性の場合の壁について多く出されましたが、私が会社を創った時、男の人たちにすごくうらやましがられました。「女性だからというのがあるよね。一家を背負っている」と食べて行けるかわからないことにはなかなか踏み切れない。その意味では、むしろ女性は選択肢がたくさんある」と。男性にとっての壁というものを感ぜましたね。専業主婦や、総合職、私のような起業家として男性にもそれぞれ、壁があるんですね。」

司会「妻子を養わなくては」と、自我を殺して働く夫を下地にした妻の自由や家庭を妻かかせにしようという夫の自由ではなく、男女がともに自分自身の自立を果たしたうえで、おたがいの自分らしい生き方を応援しようということが大切ですね。そうすれば生き方の選択肢はますます広がっていくと実感しました。」  
長谷「レイズカレッジの卒論のため専業主婦にアンケートをとったら、意外にも社会進出を望む人がほとんどだったのは驚きました。社会のいろいろな障害を解決したら、すぐ女性は社会進出するのかもしれないとそうではなく、その前に自分の中の壁を越える必要があるのだなと思えました。」  
飯塚「女性の場合の壁について多く出されましたが、私が会社を創った時、男の人たちにすごくうらやましがられました。「女性だからというのがあるよね。一家を背負っている」と食べて行けるかわからないことにはなかなか踏み切れない。その意味では、むしろ女性は選択肢がたくさんある」と。男性にとっての壁というものを感ぜましたね。専業主婦や、総合職、私のような起業家として男性にもそれぞれ、壁があるんですね。」

## 仕事や家庭における男性の望ましい生き方



※1 家事や地域活動は妻に任せ、仕事に専念する  
 ※2 家庭や地域活動を尊重するが、あくまでも仕事を優先させる  
 ※3 家事や地域活動を妻と分かち合い、仕事と家庭を両立させる  
 ※4 どちらかといえば、仕事よりも、家庭や地域活動などを優先させる  
 ※5 仕事は妻に任せ、家事や地域活動に専念する

●男性の38.3%が「家事や地域活動を妻と分かち合い、仕事と家庭を両立させる」と答えている。女性の期待には若干及ばないが、家庭を重視する男性は45.2%と半数近くを占める。

## 男女がそれぞれの自立を 果たした上で お互い「自分 らしい生き方」を応援すれば：

司会「自分らしく生きようとする時、壁となることはありますか。」  
飯塚「結婚への圧力が私にとっては壁と言えるかもしれない。私はこの夏、お見合いをしました。両親は今までもずっと「やりたいようにやれ」と言ってきたのに、結婚に関しては急に「家」というものを持ち出してきてたんです。私の両親

司会「自分らしく生きようとする時、壁となることはありますか。」  
飯塚「結婚への圧力が私にとっては壁と言えるかもしれない。私はこの夏、お見合いをしました。両親は今までもずっと「やりたいようにやれ」と言ってきたのに、結婚に関しては急に「家」というものを持ち出してきてたんです。私の両親

司会「自分らしく生きようとする時、壁となることはありますか。」  
飯塚「結婚への圧力が私にとっては壁と言えるかもしれない。私はこの夏、お見合いをしました。両親は今までもずっと「やりたいようにやれ」と言ってきたのに、結婚に関しては急に「家」というものを持ち出してきてたんです。私の両親



## 「素敵だな」と思う男性や 女性には やっぱり素敵な パートナーがいる

司会「パートナーとの関係についても、お話しただけですか。」  
田辺「僕は、妻にもなるべく自由にやりたいことをやらせてもらっています。妻もセミナーとかいろいろ首をつっこんでやっていますよ。お互いそれが当たり前のようになってます。自分が自由になる分、妻の自由も認めてカバーしていきたい。」  
長谷「私は最近精神的に余裕ができていますが夫は働き盛り。そのため、夫に生活時間の余裕がなくて気持ちが行き違ってしまうことも多く、夫との意識のギャップを感じています。社会全体

司会「自分らしく生きようとする時、壁となることはありますか。」  
飯塚「結婚への圧力が私にとっては壁と言えるかもしれない。私はこの夏、お見合いをしました。両親は今までもずっと「やりたいようにやれ」と言ってきたのに、結婚に関しては急に「家」というものを持ち出してきてたんです。私の両親